

# 旬ぱん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台 1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail: info@iki2life.com

## 10月例会ご案内

10月11日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 城野先生の主冊子「なぜ脳力開発なのか」の再考察 第10回~第12回(最終回) 一脳力開発と脳科学との関係一

場所 : 港区商工会館

参加費 : 1000 円

担当 : 古川 元晴

### 第1 第10~第12回の要点

#### 1 第10回 頭はいつでも、何にでも使え

①脳は140億の細胞で成り立っているから、140億のπ乗の物事に対応できるのであり、それは無限と比べてよい。

②何でも興味を持ち、観察してみると、物事の法則性をどこでも習得できる。限定された局面と材料だけから観察していると、慣れっこになって新しい局面がつかめなくなってしまう。慣れてしまうと、それは固定化して変わらないものと思込んでしまうのが、脳の習慣的反応なのである。

#### 2 第11回 他人は自分の思うとおりにはない一普遍性と特殊性一

①人間関係の根本は、他人は自分の思い通りに動くものではないという事実を承認するところから出発しなければならない。

②実際問題では、各人の持っている特殊性が共通性の上にかぶさって前面に出てくるために、違っている特殊性が他人の全体であり、普遍性であるかのように錯覚してしまう。

#### 3 第12回 脳の働きは無限

①「脳力開発」とはなにかの総括・脳力開発の推進とはこの世の中をもっと素晴らしく、おれも十分に生きてきたぞという実感を、すべての人たちにもってもらいたいという活動なのである。

②一刻一刻を大切に・・・時はすぐ過ぎていく。日、米、中の経済サーキュレーション(流通回転)は一步一步始まっている。額にシワを寄せて困難を嘆き、胃が痛くなることのないように、10倍、15倍の仕事を悠々と始末できるようにする脳力開発は、今からすぐ始めなければならない。

### 第2 脳科学者池谷裕二著『脳には妙なクセがある』の要点

#### 1 脳研究の視点

脳科学の視点から、「よりよく生きるとは何か」を考えること。楽しくごきげんに生きる一この目標を達成するために脳科学の成果を活かしたい。

#### 2 実験結果から見た感情表現・形と感情との関係

①笑顔を作るから楽しいという逆効果

②感情を表現する行為としての恐怖と嫌悪

③姿勢を正せば自身が持てる?・柔道、弓道、茶道等の「〇〇道」

④甘い記憶、苦い思い出・経験や感情を味覚にたどる方法は多くの言語に共通

#### 3 脳の活動状況から見た意識(思考・心)

①ヒトの行動は、80%以上はおきまりの習慣に従っている・・・「よく生きる」ことは「よい経験をする」ことである。

②実験によって得られた「脳地図」

③「自己認識された自分」と「他者から見た自分」の乖離を示す脳活動

・前頭葉にある「前運動野」・個々を刺激すると身体運動が起こるが、本人には「動いた」という自覚がない。

・頭頂葉にある「補足運動野」・個々を刺激すると、実際には動いていないのに「動いた」ように感じる。

#### 4 ヒトの思考・心はどこにあるのか

①「一見抽象的にも思えるヒトの高度な思考は、身体の運動から派生している」という仮説

②「心」は脳回路における身体性の省略

③ヒトの脳は、身体の省略という美味しい「芸当」を覚えたがゆえに、身体性を軽視しがち。しかし脳は、元来は身体とともに機能するように生まれたもの。心は脳にはなく、身体や環境に散在しているもの。

④何事も始めたら半分は終了?

⑤身体運動を伴うとニューロンが10倍強く運動する

### 第3 脳力開発と脳科学との関係の論点

例会では、主に次の論点について、具体的に議論します。

①「脳」へのアプローチの仕方は、城野先生と脳科学者とはどのように異なるのか。

②脳科学の成果を脳力開発にどう活かすか。

